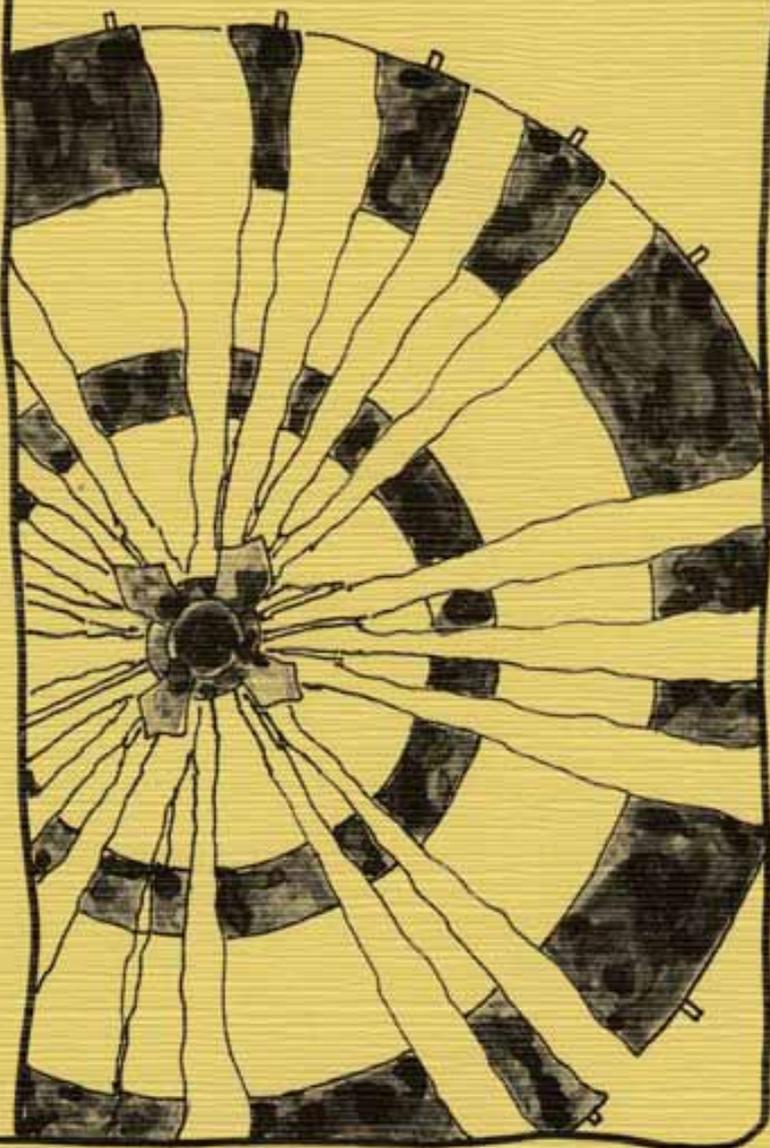


やぶれ傘

一一九号
二〇二一年四月



雨らしき雨が上がつて桃の花	根橋宏次
ふらここを漕ぎつつ見やる滑り台	きくちきみえ
蝌蚪生まる水面のゆるる朝のこと	大島英昭
川風の時に触れゆく芦の角	廣瀬雅男
連翹は攻撃的に明るくて	丑久保 勲
菜の花のバスタープルクロス赤	青谷小枝
野良猫が来て何かいふおほる月	藤井美晴
草餅は売り切れと茶をふるまはれ	瀬島酒望
あぶくひとつ池の底から浮く日永	白石正躬
ただいまの声隣家より目借時	小山よる
畝沿ひに残る足跡春寒し	渡邊孝彦
揚雲雀ちろちろちろと水の音	安藤久美子
恋猫の声をぬるめの仕舞湯に	天野美登里
木の芽風ガラス細工の微動して	有賀昌子
釣宿の帳場を飾る吊るし籠	秋山信行

抄 集 句 傘 ぶ れ 大 崎 紀 夫 選

春の薔薇一輪摘みて床の間に	松村光典
じじばばと孫とそろつてちやんちゃんこ	石原健二
母のあと子が自転車で追ふ余寒	泉 一九
「少しサドル下げませうか」とうららけし	岩藤礼子
能登の夜は甘く煮つけし真鱈の子	奥田温子
やはらかき草に坐ればたんぼぼ黄	倉澤節子
乗つて知るバス停上に花ミモザ	黒澤次郎
長電話してゐて春の日の暮れて	小巻若菜
春の海重なる屋根の上に見え	手島百合子
春昼のマネキンの腕はづされて	中島和子
翼ふるあるかなきかの音のして	貫井照子
春浅し無事めぐり来し誕生日	橋本美代
真向ひの人なき席に冬日さし	日高みち子
燐寸箱どちらにも開きあたたかし	武藤節子
木の芽風運転席の窓開けて	村田 武

森美佐子
かいつぶり浮きつ潜りつ池の淵
朝日差す枯芝に鳩群れきたる
水盤に紅き葉浮いて凍りけり
早梅を見上ぐる先に昼の月
ひさびさに茶の間に飾る内裏雛
駒返る草のありけり畦を行く
麦青む見沼たんぼのひとところ

山本久枝

寒晴れや裾ひく富士の見ゆる土手
紅梅の一枝隣の壁に触れ
恙なく終へしひと日の寒茜
風ひかかる新幹線の通過音
出荷待つ桃の切り花三分咲き
喪の家の庭の山茱萸色濃くて
小流れの板の土留や芹生る

湯本正友

残る鴨幅が六尺ほどの堀
目の先にひよんと顔だすかいつぶり
霜降る夜バスの座席の温さかな
屋外の囀り増して雨上がる
尻だして潜り餌取る残る鴨
綿雲のどこか春めく今日の空
日の当たる枝に雀の子の一羽

湯本実

松納め孫の動画が届きけり
春炬燵朝刊腹に夢の中
蛇行する孫の自転草青む
啓蟄や孫は制服試着へと
早廻りのゴミ回収車の雷
孫の笑顔今年も見たし雛飾る
山火事とコロナの話春炬燵

病室の窓の真中に冬の月
青首の大根によきりによきりかな
堀越えてひとかたまりの蜜柑垂れ
青森の帆立霜夜のクール便
枯木立車のライト切れぎれに
皆首を一方に向け鳥帰る
恋猫の飛び越えてゆくボンネット

吉田幸恵

浅嶋肇

採れたての玉子で閉ぢる七日粥
玄関の錠確かむる霜夜かな
探梅やさつき来た道また通る
取り壊す高層ビルや鳥帰る
梅林ははるか丘の高みまで
侘助や膝を崩さぬ葬の客
白加賀といふ白梅の匂ひ立つ

安齋正蔵

北窓開け黴の匂ひを放ちけり
春の風で咽を傷めてしまひけり
幼子は腹這ひになり青き踏み
野遊びに動き疲れて息を入れ
草摘みの少女の声は美しき
啓蟄や兜太の本は金庫中
何事もなく今日を過ごして春寒し

石塚清文

寒鴉社の森で幅きかす
寒の闇吾が足音に振り向き
寒稽古正拳突きで風を切り
早梅の右の家にも左にも
公園の子等の喧騒日脚伸ぶ
土手下に小さき渡船場猫柳
犬ふぐり園児は土手を駆け上がり

石原健二

山の端を離れ高きへ寒の月
しぼらくは前に進めぬ雪しまき
霜枯れて白く輝く河川敷
冬けやきの枝の切られて棒のごと
堆肥置く山の際より畑を打つ
小走りに帰りゆく人寒夕焼
じじばばと孫とそろつてちやんちやんこ

泉 一九

鍋焼をくもる眼鏡で探り食ふ
母のあと子が自転車で追ふ余寒
この畑は特に青々はうれん草
春こたつ葉袋の置かれをり
昼過ぎに店を開けたる種物屋
煎餅のザラメこぼれる春の雷
芽柳や漆喰壁の美術館

稲田延子

芽吹きたる枝を雨粒伝ひゆく
古民家カフェ濃い目のモカと桃の花
鶯の初音に出合ふ島の裏
海風に吹かれつ蜂の去りにけり
摩崖仏のほほ笑んでゐる木の芽山
春めける日差しと子らのスベリ台
老木の楳にさくら咲きゐたる

岩藤礼子

羽搏いて二三歩駆ける春の鴨
暖かや友だちの友だちも来て
「少しサドル下げませうか」とうらけし
桜ごとと消えし風景遠蛙
雛納め済みたるのちの旅用意
啓蟄の暗渠の蓋は踏めば鳴る
雪柳くすくす笑ひ通りゆく

節分の鬼の優しき面構へ
墨堤の葉は三枚の桜餅
料峭の街の明りは琥珀色
太き幹に張りつくやうに梅の花
赤ちやんの大人びた顔うらけし
コンビニにふらり立ち寄る春の昼
枝々の見栄えひとときは梅見茶屋

江口恵子

金柑をくはへ飛び立つ尾長鳥
冬の雨二日続きの家籠り
ウオーキング春一番を背に受けて
転寝の中で春雷聞きにけり
寝過ぎしの寝癖を直す春うらら
白木蓮雨降る前の風に揺れ
通るたびフリージアの香漂ひて

枝みや子

広幅の布団親子で寝たことも
雨の日暮れは雪の夜となりけり
能登の夜は甘く煮つけし真鱈の子
鳥来れば破れ障子を良しとして
櫛の木のヒヨと目の合ひうらけし
雛あられ食べつつ仕舞ふ立雛
早咲きの桜を見むと連れ立つて

奥田温子

枯れ草を背にも腹にも犬駆ける
マフラーを幅広に折り口元へ
指先の芯まで冷えて冬の朝
春待つやマスクの残り数枚に
梅香る膝下ほどの丈なれど
春風のいたづらチャイム鳴らし過ぎ
街の灯の静かに揺れる春の川

神山市実

亀岡睦子

冬の雨しとどねぐらへゆく鳥
陽当りに花を咲かせる福寿草
いにしへの人もめでたる梅の咲き
草萌えの土手を子供が滑り降り
木の枝に芽吹きいろの淡淡と
藪椿の心惹かれる白さかな
味噌和への独活供へけり夫の墓

木村瑞枝

鬼瓦の目にすつぽりと寒雀
霜の夜は身の解けゆく湯につかり
寒明くる床の書幅をとりかへて
夜に近くハウレン草を半把茹で
飛び石の間あはひに草青み
菓子箱に千代紙の雛たまれて
工作の紙雛ならぶ児童館

倉澤節子

ぶらんこのゆるるにまかせ鳥を聴く
春寒の教室に風入りにけり
春の湖つかずはなれず二羽の水脈
あくびしてのびして春の猫となる
芽吹く木々鉄のオブジェが忽然と
やはらかき草に坐ればたんぽぽ黄
切株の蠅の子とんでまたとまり

黒澤次郎

紅梅は水鉢あればそこに散る
乗つて知るバス停上に花ミモザ
道端の雀の帷子見てひとり
桜木に樹勢調査の札二月
金縷梅のほころび初めし山家かな
立春やいづものやうに呑む薬
放置田に雉の一声ありにけり

小池一司

春の鳥見知らぬ鳥のまじりをり
目の前に群れる小魚春の海
旨さうに少し焦がして目刺焼く
白魚の透けたる腹に醬油さす
飛行機の灯の行く先の春の月
ガス工事啓蟄の土掘り返す
ミモザ咲く小さき家の新しき

小巻若菜

珈琲のまた冷めてゐる冬の薔薇
夜の明けて冬の筑波山を正面に
臘梅を見上げる先に白い月
長電話してゐて春の日の暮れて
銀の目の一尾毎あり白子干し
春の陽の沈まんとして大きこと
気にかかるポスト見にゆく夕おぼろ

坂本和穂

侘助に季節外れの花一輪
改札を出て霜の夜を小走りに
雪催夕餉の前に盗み酒
ワクチンを打つて出かける春の旅
明日入試曇りガラスにガンバレヨ
不揃ひの新芽ぽちぽち蓮華草
春の星スマホが鳴つて震度四

佐藤稲子

川岸の雪を巻き込み雪解川
大壺に投げ入れ活けし猫柳
残る鴨池の日向に群れなして
朝からの雨降りやまず春の雷
紅白の椿を背にし雨情歌碑
ロープワークてふ剪定を太き松
大輪てふハイビスカスの苗木植う

◇5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	5日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	秋山信行
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
6月	1日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	7日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	皇居・二の丸庭園	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	26日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

6月20日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所 皇居・大手門前。パレスホテルの前。

吟行地は皇居・二の丸庭園。

句会場は江東区・森下文化センター。

◎連絡先

秋山信行	☎ 048-874-0555	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856